

# はくさん

第53巻 第3号



〈イラスト 左から オニグルミ、タムシバ、サワグルミ〉

## ブナオ山観察舎周辺のキュートな冬芽と葉痕たち

落葉広葉樹は冬が近づくにつれ、体内の水分の放出を避けるために葉を落とし、その枝には、冬芽という新しい芽が現れます。樹木によって、冬芽には葉や葉の一部が変形した芽鱗と呼ばれるタケノコの皮のようなものに包まれている鱗芽と、包まれていない裸芽があります。タムシバは芽鱗があるタイプの鱗芽で、一番先端のふわふわの芽には花芽、脇にある毛のない芽には葉がそれぞれ入っていて、春を待っています。オニグルミやサワグルミは裸芽で皮には包まれていません。また、葉が大きい樹木では、葉が落ちた部分にあたる葉痕が、動物や人の顔のように見えることがあり、その可愛さは見つけた人の心を和ませてくれます。

冬になると普段見慣れている樹木でも、種類が分からなくなりますが、じっくりと観察して芽の形や枝に残る葉の痕を覚え、春に答え合わせをしてみるのも、面白いかもしれません。

(文章：岩本 華奈 イラスト：内藤 恭子)

## 目次

- |   |       |
|---|-------|
| P1 白山のササ刈り取り実験の1年後                          | 岩本 華奈 |
| P2 2024-2025年冬の大雪を振り返る                      | 北原 岳明 |
| P8 並べると分かる？雪の多い地域と少ない地域の植物の違い               | 岩本 華奈 |
| P11 冬眠明けのツキノワグマを観察してみよう～500m先を観察できるブナオ山観察舎～ | 近藤 崇  |
| P13 白山自然ガイドボランティア第8期生を募集します                 | 川畠 敦仁 |



# 白山のササ刈り取り実験の1年後

岩本 華奈（白山自然保護センター）

## 1. 一年後の結果報告—雪田植物はのんびりやさん？

普及誌はくさん52巻第3号では、白山の弥陀ヶ原でササの拡大により衰退した雪田植生の回復手法を検討することを目的として、弥陀ヶ原のササの一部を刈り取りしたことを報告しました。昨年度は2m×2mの区画を6箇所刈り取りました。今年度は6箇所の刈り取り区画のうちの3箇所を刈り取り、残りは2年に1回刈ることにして比較することになりました。結果の詳細は、今後の研究報告に記載する予定です。

今年度の初回の調査は、7月30日に実施しました。この調査では、ハクサンフウロ等の被度※<sup>1</sup>が前年よりもわずかに増加していました。また、昨年度はササ以外何もなかった箇所でも、ハクサンフウロの芽生えが見られました（写真3左）。ハクサンフウロは種が成熟すると雌蕊の皮が剥がれ、その勢いで種を飛ばすため、周辺から飛んできた種が発芽したのかもしれませんが。どれだけ成長したか、9月の調査で確認したところ、本葉は2枚程度まででした（写真3右）。非常に成長はゆっくりしており、花が咲くには複数年かかるのではないかと思います。比較的ササの密度が少なかった場所では、昨年調査では葉や茎などの地上部は全く確認されていなかったクロユリが開花しました（写真4）。クロユリは、鱗茎※<sup>2</sup>が離れた後、しばらくは1枚葉の個体として成長し、栽培下でも開花に6～8年がかかると言われています。今回の開花は地下で休眠していた、ある程度成長した鱗茎から芽が出たものと考えられます。

## 2. 可憐な花たちのために

北海道の大雪山では、雪解けの早期化によりササが拡大しています。もし白山でも、雪解けが早期化すると、さらにササが拡大してしまうかもしれません。ササを刈ったとしても、高山植物は成長に長い時間がかかりますし、ハクサンフウロがあまり成長しなかったのは、ササの落ち葉が邪魔をして根をうまく張れていなかったのかもしれません。今後も実験は継続したいと思っていますが、これ以上、ササが拡大しないように、可能な限り日常生活の中で温室効果ガスを排出しないような選択をしていくことも大切です。

※<sup>1</sup> 被度：本調査では、地面の面積に対する地面を覆う葉の面積の割合が何%かを記録。

※<sup>2</sup> 鱗茎：短縮した茎に養分を蓄えて肉厚になった葉が集まってついているもの。



写真1 2024年9月の様子



写真2 2025年9月の様子



2025年7月30日 2025年9月6日  
写真3 ハクサンフウロの1年間の成長



写真4 開花したクロユリ



# 2024－2025年冬の大雪を振り返る

北原 岳明（白山自然保護センター）

石川県、特に白山麓は例年雪が多く降る地域ですが、昨年の2024年から2025年にかけての冬（2024-2025年冬）は大変な大雪に見舞われ（写真1）、その影響が夏まで残ることとなりました。

本記事では、2024-2025年冬の大雪の状況について、写真やデータを用いて紹介していきたいと思います。



写真1 大雪で1階が埋まったブナオ山観察舎  
（2025年2月10日撮影）

## 1. そもそも、なぜ白山麓にたくさんの雪が降るのか。

ここで、白山麓ではなぜたくさん雪が降るのか、そのメカニズムについて説明したいと思います。

例年日本列島周辺では、冬になると西のユーラシア大陸（シベリア近辺）で高気圧が、東の太平洋沖で低気圧が発達することで「西高東低」型の気圧配置となることが多くなります。空気は高気圧の場所から低気圧の場所に流れるので、冷たい空気（寒気）が断続的に日本列島に流れ込みます。

その際、日本海をって海の湿気（水蒸気）を吸収することで雪雲が発生します。日本列島沿岸には暖流（対馬海流）が流れており、海水温と寒気との温度差により上昇気流が発生し、水蒸気を多く含んだ空気が昇っていくため、雪雲が更に発達します。その後、白山をはじめとする高い山々に空気がぶつかり更に強い上昇気流が発生して、山間部を中心として雪を降らせます（図1）。白山麓を始めとする日本海側では、このような形で雪が降ることが多く、山間部を中心に雪が降る場合は「山雪」と呼ばれます。一方で、気圧配置等の関係で非常に強い寒気が入って来る場合や、季節風の流れが弱い場合は、山々にぶつかる前に雪雲が発達し、平野部でも大雪が降ることになるため「里雪」と呼ばれることとなります。

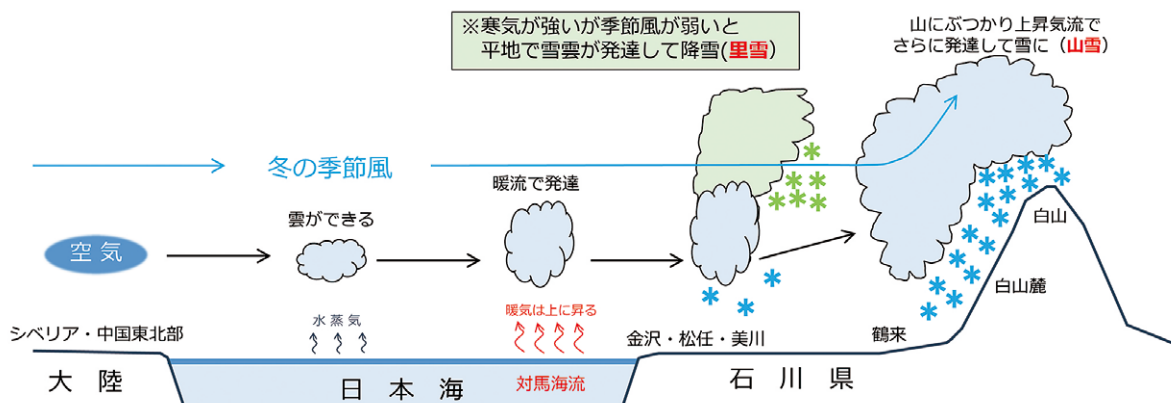


図1 日本海側（白山麓）で雪が降るメカニズム



## 2. 2024－2025年冬の降雪・積雪について

白山麓及び平野部の各地域の過去4年間の最大積雪深及び累計積雪量について、グラフにすると図2、3の通りとなります。（※金沢及び白山河内については気象庁のデータより、それ以外については、石川県土木部のデータより作成）

過去4年間で比較すると、2021-2022年は比較的積雪が多い年でしたが2022-2023年及び2023-2024年は積雪が少なく、穏やかな冬となりました。しかしながら、2024-2025年は久しぶりに積雪が多い年となりました。

比較的積雪が多かった2021-2022年と2024-2025年の雪を地域別にみると、金沢や白山市木津<sup>こうづ</sup>といった平野部、白山河内や鳥越といった山間部でも標高の低い場所では積雪は2021-2022年並みでしたが、山間部でも標高の高い場所（吉野谷より山奥の場所）では2021-2022年に比べて顕著に積雪量が多くなりました。このため、2024-2025年は2021-2022年に比べて、特に山間部で雪が多い「山雪」の年になったことが分かります。

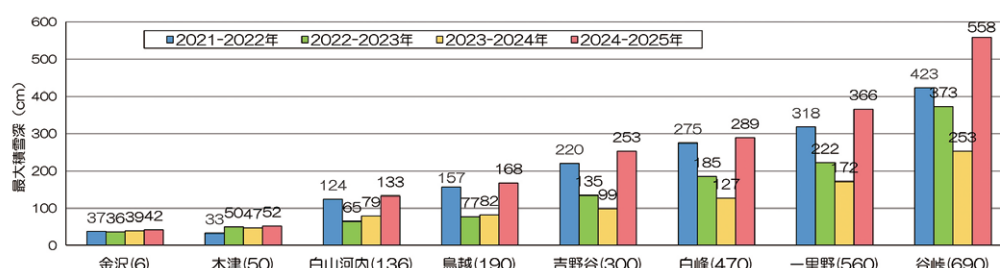


図2 白山麓関係の各所における最大積雪深の推移（カッコ数字は観測地点の標高（m））

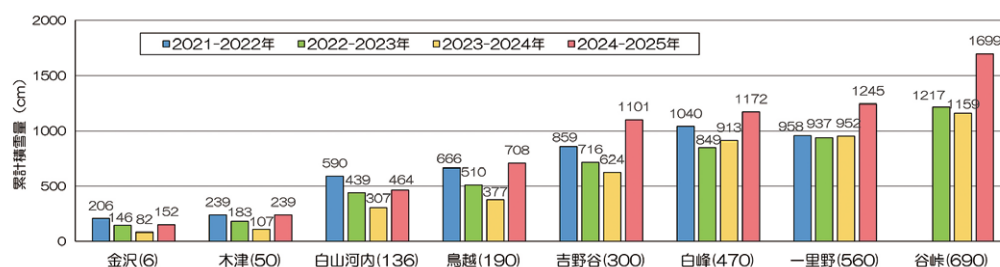


図3 白山麓関係の各所における累計積雪量の推移（カッコ数字は観測地点の標高（m）、※2022年谷峠は欠測日が多いため除外）

寒波襲来時には除雪が追い付かず、除雪後もさらに雪が積もって通行が困難になることも多々ありました（写真2）。

このため、通常でも雪が多いブナオ山観察舎でも、雪が原因で臨時休館させていただくことがありました。また、雪が積もりすぎて建物に損傷の恐れがあること、および窓が雪で埋まって外が見えなくなり動物観察に支障をきたしていたため、雪が落ち着いてから職員総出で雪下ろしを実施しました。



写真2 除雪後に再度積雪した状況  
（2025年2月20日、尾添集落山側の国道で撮影）



写真3 ブナオ山観察舎の雪下ろし  
（2025年2月10日撮影）



### 3. 2025年春、白山麓は大量の残雪に包まれた

冬にたくさん雪が降ったため、2025年は雪解けが遅い白山麓の春となりました。

#### (a) ブナオ山観察舎で雪解けを比べる

当センターのブナオ山観察舎では、積雪深を毎日測定しています。測定場所で積雪が0 cmになった日を比べてみると、前ページで積雪が少ないと紹介した2023年及び2024年と比べて、2025年は雪解けの遅さがはっきりと表れました。2023年は3月29日、2024年は4月9日に積雪が0 cmになりましたが、2025年は4月29日に0 cmになり、2025年は2024, 2023年に比べて明らかに雪解けが遅い年となりました。

暦では同じ時期に撮った写真で見比べてみても、2025年は雪解けがとても遅かったことが分かります。同じ4月中旬でも、2023年は稜線付近まで雪がすっかり解け、中央部の大きな谷（通称オオノマ）に雪が残っている程度になっていますが、2025年は上部にはまだしっかり雪が残っており、オオノマだけでなく左側の山腹や谷にも雪が残っています（写真4,5）。また、2023年に比べて2025年は斜面の緑が明らかに少なく、雪解けが遅かった影響が出ていると思われます。

なお、ゴールデンウィークを迎える頃は対岸斜面の草丈が伸びてきて、雪解けの早い年はツキノワグマ等動物が見られても、すぐに草むらに隠れてしまいますが、2025年は新緑の成長が遅く、シーズン最終盤まで動物観察を行うことができました。



写真4 2023年4月中旬のブナオ山観察舎対岸  
(2023年4月16日撮影)



写真5 2025年4月中旬のブナオ山観察舎対岸  
(2025年4月15日撮影)

#### (b) 定点観測で白山の雪解けを捉える

山岳地の雪解けは気象によって大きく左右されるため、当センターでは、年々での変動、長期的には気候変動の影響を捉えていくことを目的として、市ノ瀬の岩屋俣谷園地にある白山展望台（東屋）に自動撮影カメラを設置し、雪解けを定点で観測しています（写真6）。白山展望台は六万山や白山釈迦岳、御前峰が一望することができ、なおかつ尾根上に建っていて雪に埋まりにくいいため、雪解けを観測するには良い場所となっています（写真7）。



写真6 白山展望台に設置した自動撮影カメラ

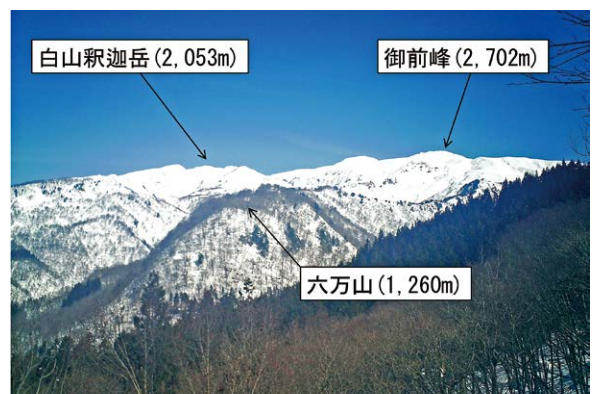


写真7 自動撮影カメラで撮影した白山  
(2025年3月1日撮影、主なピーク名称と標高を追記)



それでは、4月から5月にかけての白山の雪解け（残雪）について、2023～2025年の過去3年分の写真を並べて、比較してみたいと思います（写真8～16）。

まず、年によって、暦では同じ日であっても雪の状況が大きく異なっていることが分かります。また、2023年と2024年は概ね同じようなペースで雪が解けていっていますが、2025年はそれらの年に比べて著しく雪解けが遅かったことが分かります。

特に六万山の山腹及び白山釈迦岳左側の山腹（標高1,000～2,000m程度）に着目して比較してみると、2025年5月1日の雪解けは、2023年及び2024年のそれぞれ4月2日の雪解けとおおむね見た目が同じであることが分かります。このため、白山の標高1,000～2,000m辺りでは、2025年は2023年及び2024年に比べて、おおむね1ヶ月ほど雪解けが遅くなったことが分かります。










年 日	2023 年	2024 年	2025 年
4 月 2 日 頃			
4 月 15 日 頃			
5 月 2 日 頃			

写真8～16 2023～2025年の4月2日～5月2日に撮影された白山の写真

このように、2025年の白山麓は過去2年に比べて雪解けが遅かったためか、例年では雪解け後にブナの新葉が芽吹いてくる箇所でも、それを待たずして新葉が芽吹いてくるという光景に至る所で見られました。

私は春先白山市瀬波の松尾山（標高1,160m）に登ったのですが、山頂付近では雪の中でブナなどが芽吹いていました（写真17）。白い雪の中に新緑が映え、美しい光景だと思いました。



写真17 松尾山山頂付近の残雪と新緑の様子  
（2025年5月6日撮影）



#### 4. 2025年夏、白山の上では盆過ぎまで雪が残る

2025年の白山は、久しぶりに雪の多く残る夏を迎えることとなりました。

##### (a) 同じ日に撮った白山で雪解けを見比べる

私は2024年と2025年とも、同じ6月8日に白山のチブリ尾根避難小屋まで登りました。同じ画角で撮った写真を見比べると雪解けのペースの違いがはっきりと分かりました（写真18, 19）。

2024年は標高の低い部分はすっかり雪が解け、甚之助避難小屋付近から所々雪が残っている状況でした。一方、2025年は全体的にしっかり雪が残っており、写真では見切れている部分（別当覗の少し下あたり）まで雪が残っていました。暦では同じ日付に撮影した2枚の写真を見比べて、白山の上部でもかなり雪解けが遅れていることが分かります。

なお、2024年のこの日はすでに別当出合まで冬季閉鎖が解除になっていて、別当出合では300台を超える駐車があり夏山のように大混雑していました。一方で2025年のこの日は、まだ市ノ瀬から別当出合の間が冬季閉鎖解除になっておらず、気軽に別当出合から登山を楽しめる状況ではありませんでした。暦では同じ日付であっても、年によって登山環境が大きく変わってしまうほど、白山の残雪は変動が激しいのだと改めて思いました。



写真18 チブリ尾根避難小屋から撮った白山  
(2024年6月8日撮影)



写真19 チブリ尾根避難小屋から撮った白山  
(2025年6月8日撮影)

##### (b) 開山後も雪が残り調査に支障をきたす

開山を迎えても、白山の高山では雪が残り、弥陀ヶ原にも雪が多く残っていました（写真20）。また、場所によっては8月下旬になっても雪が厚く残っており、調査に支障をきたすこともありました（写真21）。今年は当センターが受託している「モニタリングサイト1000高山帯調査」（以下「モニ1000調査」）の一環で、水屋尻雪渓等で植生調査の実施箇所に杭を打ちましたが、雪解けが遅かったため8月下旬でも地面が見えず、打込み作業が中々出来なかった箇所もありました。



写真20 開山を迎えても雪が多く残る弥陀ヶ原  
(2025年6月30日撮影)



写真21 8月下旬になっても雪が残る水屋尻雪渓  
(2025年8月23日撮影)



(b) 地表温度で白山の雪解けを捉える

白山の高山の冬は、時に気温が-20℃もの低温になりますが、雪には断熱性があるため、ある程度の積雪があれば地表は0℃に保たれています。そして、雪が解けると外気温に応じて地温が変動するようになります(図4)。

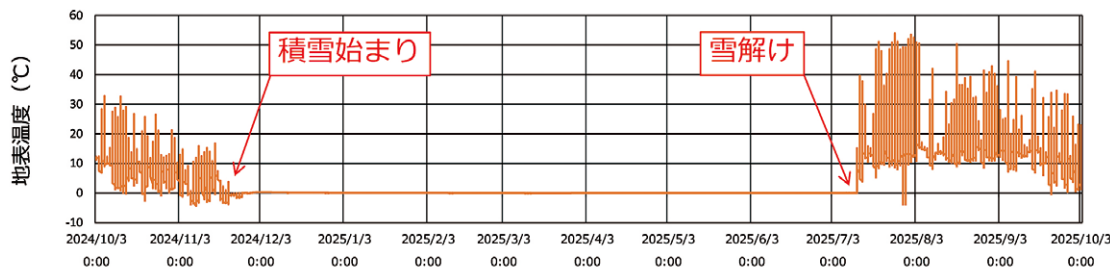


図4 2024-2025年冬における、弥陀ヶ原の地表温度の推移

これを利用して冬季の積雪期間等を捉えるため、当センターではモニ1000調査の一環及び当センター独自の調査として、地温計を設置して調査を行っております(図5, 写真22)。今回は、その一部のデータを用いて、2023~2025年の雪解けを比較したいと思います。

地温が少しでも変動し始めた日を仮に「雪解け推定日」とすると、2025年は2024年に比べて15~31日(平均24.25日)、2023年と比べて19~45日(平均31日)雪解け日が遅くなったことが分かりました(表1)。

白山展望台での定点観測では、2025年は2024,2023年に比べて標高1,000m~2,000m程度で1ヶ月ほど雪解けが遅れたと書きましたが、標高2,000m以上の高山でも、1ヶ月程度雪解けが遅れたことが分かりました。



図5 白山での地温計の設置箇所  
(国土交通省国土地理院「地理院地図」を加工して作成)

場 所 (数字は大体の標高)	2023年	2024年	2025年		
	雪解け推定日	雪解け推定日	雪解け推定日	2023年比	2024年比
水屋尻(2460m)	6月2日	6月18日	7月17日	+45日	+29日
展望歩道(2445m)	6月23日	6月27日	7月12日	+19日	+15日
弥陀ヶ原(2340m)	6月12日	6月20日	7月12日	+30日	+22日
南竜庭園(2065m)	5月29日	5月28日	6月28日	+30日	+31日

表1 2023~2025年における地温計設置箇所の「雪解け推定日」の推移



写真22 地温計の設置状況

5. おわりに

諸々の写真とデータから、2025年は大雪が降り、2024, 2023年と比較して白山は1ヶ月程度雪解けが遅くなったことを紹介しました。2026年もまた、白山の雪融けについて、引き続き注視していきたいと思います。なお、本稿で紹介した観測機器を白山で見つけた際には、お手を触れないようにお願いします。

《《出 典(気象庁過去データ)》》

金沢

([https://www.data.jma.go.jp/stats/etrn/view/annually\\_s.php?prec\\_no=56&block\\_no=47605&year=2025&month=1&day=&view=](https://www.data.jma.go.jp/stats/etrn/view/annually_s.php?prec_no=56&block_no=47605&year=2025&month=1&day=&view=))

白山河内

([https://www.data.jma.go.jp/stats/etrn/view/annually\\_a.php?prec\\_no=56&block\\_no=0973&year=2025&month=1&day=&view=](https://www.data.jma.go.jp/stats/etrn/view/annually_a.php?prec_no=56&block_no=0973&year=2025&month=1&day=&view=))



# 並べると分かる？雪の多い地域と少ない地域の植物の違い

岩本 華奈（白山自然保護センター）

## 1. 本当にオオバクロモジ？

当センターがある、石川県白山市は毎年多くの雪に覆われ、その積雪は植物の分布にも影響しています。オオバクロモジは、雪が多く降る日本海側に分布が偏っている、日本海要素と呼ばれる植物の一つです。石川県のクロモジは多くの人は「オオバクロモジ」と言いますが、太平洋側の「クロモジ」と並べて見ないとサイズ感の違いはよく分かりません。読者の中にも、別々の写真ではなく、並べて欲しい！と思った方はいるのではないのでしょうか。今回、山梨県へ旅行に行く機会があったので、オオバクロモジの枝を1つ持っていくことにしました。



図1 白山自然保護センターと富士河口湖町の位置  
(国土交通省国土地理院「地理院地図」を加工して作成)

## 2. 当センター周辺と富士河口湖町の山の景観の違い

当センターの周辺では、落葉広葉樹や、植林されたスギが見られます（写真1）。それに対して、富士河口湖町の大石公園から見た山にはモミやカラマツ等の針葉樹が生えていました（写真2）。後に行く、青木ヶ原樹海でも地元のガイドさんによれば、スギは少ないそうです。スギは雪に強く、寒冷地の谷沿い等湿潤な土地を好むため、雪がたくさん降る白山麓には向いていたのかもしれませんが、モミは石川県にも生育していますが、国内の主な分布は太平洋側へ偏っていることが知られています。その一因として、積雪の深さも関係しており、最深積雪が1mまでの場所に分布の境界があるそうです。富士河口湖町の地元ガイドさんに周辺の冬季の積雪量を尋ねてみたところ、例年は30～40cm程度で、多い年では1m程度積もってしまい、その年はヘリコプターでコンビニまで資材を運んだそうです。雪はより寒いところで降ると考えがちですが、白山自然保護センター近隣の河内町は標高約300メートル、富士河口湖町は標高約900メートルで、気温を比較すると年間を通して河口湖町の方が1.5℃～3℃程度より冷涼な気候です。雪が降るにはもう一つの条件が必要で、それは空気中の水分です。「2024—2025年冬の大雪を振り返る」でも紹介されているように、冬になるとユーラシア大陸から吹く風が日本海を渡る間に、たっぷりと水分を含み、それが山脈にぶつかることで雪が降ります。



写真1 石川県白山自然保護センター前より撮影  
(2025年11月21日撮影)

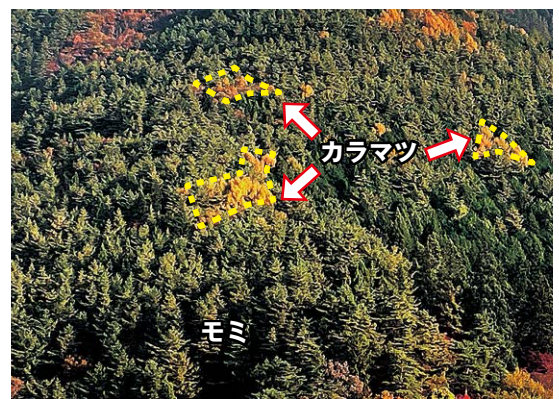


写真2 富士河口湖町大石公園より撮影  
(2025年11月16日撮影)



白山市河内町と富士河口湖町の月平均気温と降雪量の月合計

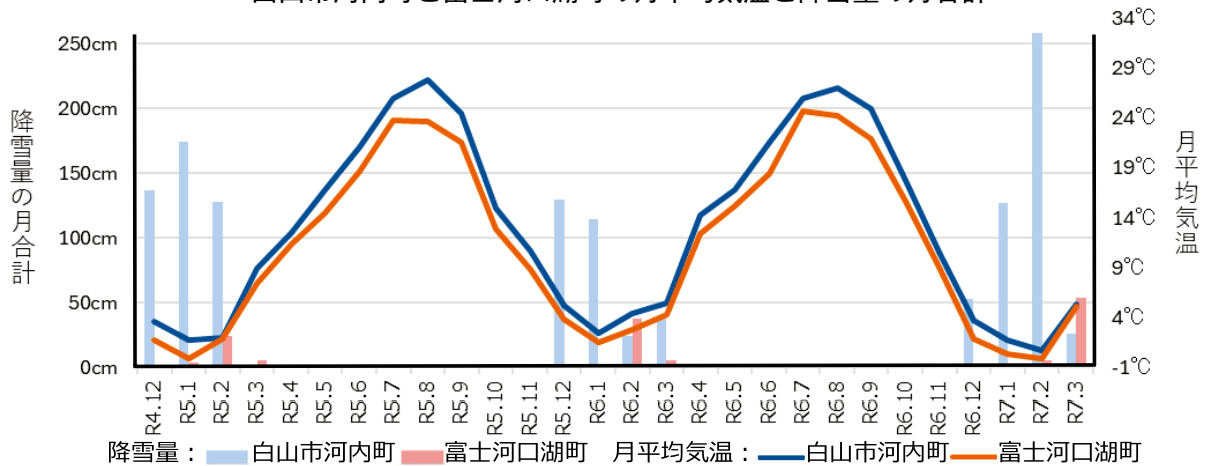


図1 山梨県河口湖と白山河内の気温と積雪量。富士河口湖町の方が気温は低い積雪は白山河内町の方がずっと多い。  
(気象庁過去の気象データより作成)

### 3. オオバクロモジとクロモジ

石川県には、どの山へ行っても必ずというほど、オオバクロモジはたくさん生えています。しかし、旅先ではなかなかクロモジの木は見つからず、青木ヶ原樹海へ行くと、林床にはアセビとミヤマシキミが青々としていました。地元のガイドさんによれば、ニホンジカがほとんどの草を食べつくし、残ったのが有毒植物である、とのことでした。青木ヶ原樹海は林床には、落葉樹の実生も草もほとんどみられませんでした。ヒノキゴケをはじめとするコケの美しい森でした（写真3）。周辺を探してやっとレモンイエローに紅葉したクロモジを見つけたのは、人の気配があるキャンプ場の近くでした。クロモジもオオバクロモジも、個別の写真は図鑑に掲載されていますが、1枚の写真に納まっているものは見たことがありません。早速、オオバクロモジとクロモジを並べて見ました。石川県から持っていったオオバクロモジも樹高2m程度の個体でしたが、同じような樹高の個体でも、クロモジは葉の長さは5cm前後、冬芽のサイズは8mm程度の大きさしかありませんでした（写真4、5）。触った時の、葉の厚みや質感は同じような感じでした。雪解け水が少ない太平洋側の気候では、乾燥に耐えるため、芽が小さいのかもしれません。

ところで、今回、山梨県に持っていったのはオオバクロモジだけではありません。オオバクロモジと同様に多雪地帯に生育すると言われているヤマモミジやユキツバキも、雪の多くない地域に生育すると言われている、オオモミジやヤブツバキと比較してみたいと思い持っていきましたが、今回クロモジ以外で出会えたのは、オオモミジのみでした。



写真3 青木ヶ原樹海。平坦な地面が続く。



写真4 クロモジとオオバクロモジの冬芽



写真5 クロモジとオオバクロモジの葉



#### 4. ヤマモミジとオオモミジ

オオモミジは石川県の奥能登にも分布しているのですが、せっくなので太平洋側のオオモミジと比較してみようと思い、ヤマモミジと並べてみました（写真6）。図鑑には、オオモミジの方は鋸歯が細かく整っていると記載されており、並べると違いがよくわかります。オオモミジは随分と葉っぱの緑のギザギザが細かいことがわかります。両種が存在する岐阜県では、中間型もあるようですが、なぜこのような違いが生じるのかが書かれた資料は見つかりませんでした。



写真6 ヤマモミジ（左）とオオモミジ（右）

#### 5. ユキツバキとヤブツバキ

ヤブツバキは、実はわざわざ山梨県へ行かなくても県内にも生育しています。そこで、石川県と福井県の県境付近にある、鹿島の森のヤブツバキと白山自然保護センターの周辺のユキツバキを比較してみたいと思います。ヤブツバキはしばしば、庭木等に植栽される樹木で低木だと思っている方も多いかと思いますが、本来は樹高10～15m程度に育ちます（写真7）。鹿島の森へ行くと、巨大なヤブツバキに出会うことができます。それに対してユキツバキは、大きくても樹高2m程度と小さく、分布の境界は積雪が1.5m以上の地域とよく重なっていることが知られています。本来、寒さに弱い照葉樹※は、寒冷な地域では育つことはできません。しかし、ユキツバキは樹高が小さく、地を這うように伸びてゆくため、雪の下で冬を過ごすことができます（写真8）。また、ユキツバキはヤブツバキよりも種子の発芽率が低いですが、その代わりに枝や幹の途中から根を出して地を這うようにしてどんどんと増えていくという特徴があります。また、葉はヤブツバキよりもユキツバキの方が薄く、日光にかざすと葉脈が透けて見えるという特徴があります。



写真7 鹿島の森のヤブツバキ。直立する。

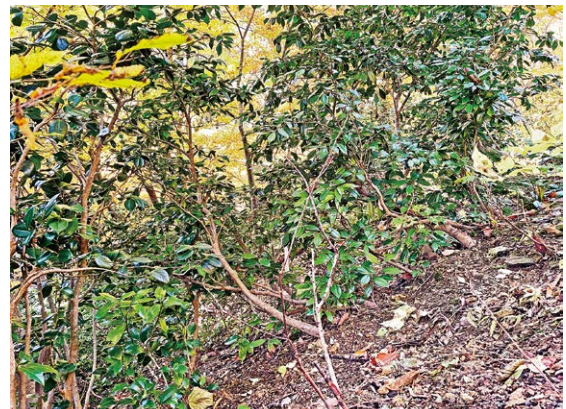


写真8 ユキツバキ。地を這うように伸びる。

#### 6. 終わりに

今回紹介した、クロモジやオオモミジ、ヤブツバキはそれぞれ比較したものとは変種という関係にあり、種としては同じ種でも分布や形態に差があるというものです。今回は別の種のような書き方をしていますが、中間型と呼ばれるどちらかはっきりしないものも存在しているそうです。



写真9 ユキツバキの葉（左）とヤブツバキの葉（右）

※温帯に生育する1年中緑の葉をつける樹木で葉の幅は広い。



# 冬眠明けのツキノワグマを観察してみよう ～ 500m先を観察できるブナオ山観察舎 ～

近藤 崇（白山自然保護センター）

2025年、連日のように世間を騒がせてニュースに出てきたツキノワグマ。当センターの近くでも、柿の木に登っているクマが発見されて騒ぎになったことがありました。人の生活圏ではなるべく出会いたくないクマですが、ブナオ山観察舎では500m先の山の中に生きるクマを安全に観察できるため、毎年県内外から多くの方が来館されます。なぜ県外からとも思われるかもしれませんが、私の知る限りでは、野生のツキノワグマを観察できる施設は全国でも唯一、石川県のブナオ山観察舎だけという貴重な施設なのです。

今回は、ブナオ山観察舎で観察できる冬眠明けのクマをご紹介します。今年はブナオ山でいつクマが目覚めるか予想してみませんか？正解はブナオ山観察舎で。



写真1 ブナオ山観察舎（4月はじめ）  
あっという間に芽吹いて山が緑色になります。



写真2 常設の望遠鏡で観察できます



写真3 モニターのライブ映像でも見えます

## 1. クマが見える“確率”は？

2000年より前は数年に一度程度しかクマの姿を見ることができませんでしたが、以降、2013年頃まで徐々に観察できる日が増えてきて、今では毎年4月にほぼ毎日のように観察できるようになりました。ただし、観察できる日が多くても、動物園のように1日中いつでも見える訳ではありません。1時間以上ずっと観察できる場所にクマが出ていることもあれば、すぐに移動してしまうこともあります。クマを見たい方は時間にゆとりをもってお越しください。

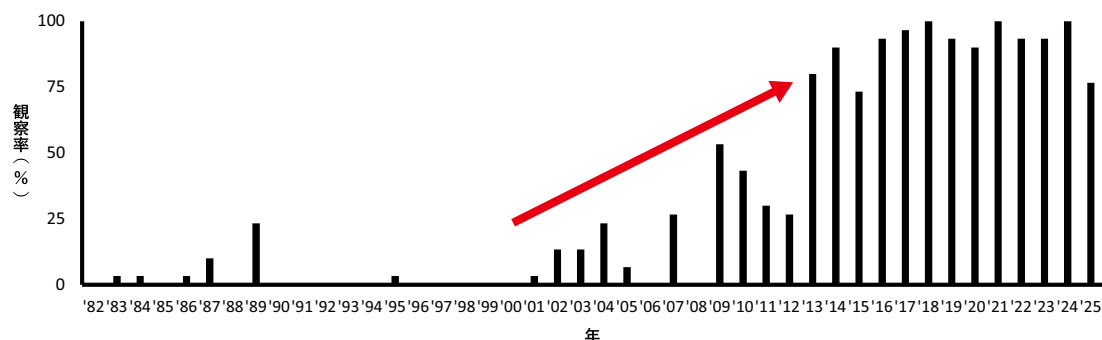


図1 ブナオ山観察舎における4月のクマ観察率（％）  
観察率（％）＝（クマ観察日/30日）×100



## 2. クマは“いつ”から見える？

ブナオ山で冬眠明けのクマが見られるようになるのは、3月末から4月はじめ頃の年が多いです。3月中旬ごろから冬眠穴の出入口をスタッフがこまめにチェックしており、クマ好きな常連のお客さんたちもよく見に来られるようになります。しかし、この時期のクマは、穴から出てきても10分程度で穴に戻ってしまったり、翌日は出てくる様子を確認できなかったりと、観察の難易度が高めです。2017年は2月28日に親子グマが観察されましたが、その後は短い時間出てくる日がたまにある程度で、3月下旬ごろから見られる日が増えていきました。2018年や2019年も比較的早い時期に観察されましたが、安定して見られるようになったのはやはり3月下旬ごろからでした。年によって多少の前後はありますが、冬眠明け初日を狙いたい方は3月から、なるべくクマを見たい方は4月に入ってからがおすすめです。5月になると草や木の葉が茂ってきて、観察しにくくなってくる年もあるのでご注意ください。

※表1：厳冬期の冬眠中に一時的に目が覚めた個体が観察された日は除いてあります

表1 冬眠明けクマが初めて確認された日（初認日）

年	初認日	備考
2013年	4月5日	
2014年	4月1日	
2015年	4月9日	
2016年	3月29日	
2017年	2月28日	親子クマが巣穴から短時間出ていた。
2018年	3月14日	やや早起きな1頭。
2019年	3月2日	2頭目は3月12日。
2020年	4月4日	
2021年	3月29日	
2022年	3月29日	
2023年	3月22日	
2024年	4月1日	
2025年	3月10日	2回目の確認日は3月27日。

## 3. クマは“どこに”現れる？

観察舎から見えるブナオ山の一部は日当たりのよい南向きの急斜面になっていて、雪崩が起こりやすく樹木が育たないため、開けた草地（ナバタ）がいくつもあります（写真4）。冬眠明けのクマはアザミやシシウドを食べにこのナバタに現われます（写真5）。ナバタのほかに、クマは新芽や花を食べるために木に登ることや、気温が高い日には涼むためか残雪の上に寝そべることもあります。

これらのクマは、観察舎から500mかそれ以上離れていますが、肉眼で発見できることもよくあります（写真6）。ナバタや木の上に黒い点がないか探して、あやしいと思ったら双眼鏡で確認してみてください。観察舎にお越しの際は、スタッフが見えている動物の位置をお伝えして観察のお手伝いをしますが、自力で動物を見つけるのもとても楽しいです。スタッフより先に見つけた際は、ぜひ教えてください。



写真4 ブナオ山の風景（5月はじめ）  
草地（ナバタ）を赤色で示しています

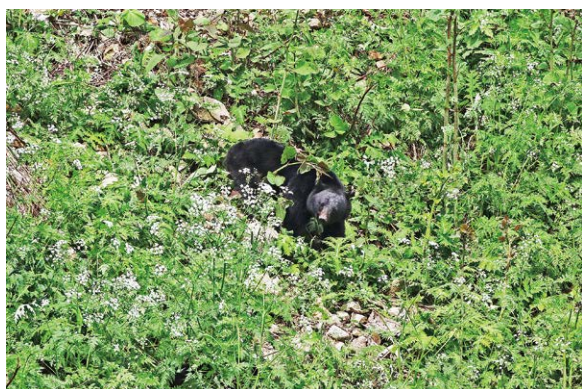


写真5 アザミを食べるクマ  
おいしいアザミを選んでいる？



写真6 クマ、分かりますか？  
慣れると肉眼で発見可能（中央の黒い点）



# 白山自然ガイドボランティア第8期生を募集します

川畠 敦仁（白山自然保護センター）

平成12（2000）年に1期生33名で設立された白山自然ガイドボランティアも今年度で25年目を迎えました。これまで3～4年おきに新規募集をかけて令和7（2025）年度現在では、62名の登録者となっています。在籍して活動されている方々の年齢層としては、50代～80代の方が多い状況です。活動をして頂いている場所の中心は、中宮温泉ビジターセンター中宮展示館、市ノ瀬ビジターセンター、ブナオ山観察舎の各施設周辺の観察路・園地等です。この他に、センターが主催となる白山まるごと体験教室をはじめとする各種行事にもご協力を頂いています。

さて、令和8（2026）年度を迎える今年5月以降に、第8期生となる白山自然ガイドボランティアを募集する予定で準備を進めています。2月上旬より募集をかける予定ですので、白山の自然・文化に興味・関心がある方は是非応募していただければと思います。緑溢れる観察路や園地を訪れる方々とともに、豊かな自然に触れてガイドをしていただければと思います。今回は白山自然ガイドボランティア（友の会）の簡単な紹介と第8期ガイドボランティア養成講座のお知らせをします。

## 1. 白山自然ガイドボランティア友の会

友の会は、平成12年に設立された白山自然ガイドボランティアが母体となり、平成25年に会として設立されました。以下に、目的、活動内容、会員資格について示します。

### 目的：

友の会は、白山国立公園及びその周辺地域における自然体験活動を行い、白山へ訪れる人々に自然の素晴らしさや大切さ、人と自然との共生について考え、理解してもらうための普及啓発を行う。また、白山自然ガイドボランティアとしての資質の向上と会員相互の親睦を図る。

### 活動内容：

#### （1）ガイドウォーク等の自然体験プログラムの実施と自然解説や自然情報等の提供

##### ①ガイドウォークの実施

来訪者に対して、野外や屋内で中宮温泉ビジターセンター中宮展示館、市ノ瀬ビジターセンター、ブナオ山観察舎の自然などを紹介します。

##### ②展示解説

来訪者に館内の展示を解説し、白山の自然・文化などを伝えます。

##### ③自然情報提供

- ・来訪者に対して、周辺の自然情報を提供します。
- ・観察路の案内、時節に応じた見どころなどを掲示します。

##### ④自然情報収集

- ・周辺の自然情報を収集します。

#### （2）「白山まるごと体験教室」「楽しもう！白山麓days」での活動

#### （3）その他 総会 年1回 研修講座 年3回程度



水と石が織りなす蛇谷の自然にて



白山ろくけものセミナーにて

### 会員資格：

友の会は、白山自然ガイドボランティアとして県で登録した者によって構成されます。この登録者となるためには、ガイドボランティア養成講座を受講して頂くことになります。



## 活動場所：

### (1) 中宮展示館（白山市中宮）

イヌワシや高山植物など白山の動植物、白山火山や化石、白山麓の人々の暮らしなど白山地域の自然・人文について紹介。入場無料。また、野外には「蛇谷自然観察園」があり、5月～11月の毎週、土、日及び祝日に、ガイドウォークを実施しています。

開館日：5月1日～11月10日（変更あり）

開館時間：午前9時～午後4時30分



秋の中宮展示館と蛇谷観察路に立つ二股キハダ

### (2) 市ノ瀬ビジターセンター（白山市白峰）

登山に関する情報提供や指導のほか、自然観察のための情報提供なども行っています。入場無料。また、市ノ瀬周辺では、5月、6月、9月～11月毎週、土、日及び祝日に、ガイドウォークを実施しています。

開館日：5月1日～11月5日（変更あり）

開館時間：午前8時45分～午後5時



夏の市ノ瀬ビジターセンターと  
パノラマ展望台から眺望

### (3) ブナオ山観察舎（白山市尾添）

ニホンカモシカ、ニホンザル、イヌワシなど野生動物の自然のままの姿を観察してもらう施設として、昭和56年に全国に先駆けて開設。観察舎内では、大型双眼鏡や望遠鏡を自由に利用することができます。入場無料。

開館日：11月20日～5月5日（年末年始除く）

開館時間：午前10時～午後4時



冬のブナオ山観察舎と  
ブナオ山の動物を探す来館者

## 2. 白山自然ガイドボランティア第8期生の募集

以下に示した形で実施する予定です。多くの皆さんの応募をお待ちしております。よろしくお願いします。

### 〈研修内容〉

自然解説の方法（インタープリテーション）や各施設での活動内容について、講義や野外実習などを通して学びます。

### 〈定員・対象〉

定員：20名

対象：18歳以上。下記3回の講座を受講し、「白山自然ガイドボランティア」として活動していただける方。

### 〈日 程〉

5月23日（土）9:00～16:00

6月13日（土）9:00～16:00

7月4日（土）9:00～16:00

中宮展示館・市ノ瀬ビジターセンター他で開催予定

### 〈参加費〉 無料

### 〈申込・問い合わせ〉

2月6日（金）～5月13日（水）まで、電子申請、または電話にて受付。

石川県白山自然保護センター

〒920-2326 石川県白山市木滑ヌ4

TEL. 076-255-5321（月～金曜日の8:30～17:00）

FAX. 076-255-5323 E-mail hakusan@pref.ishikawa.lg.jp



先輩ガイドボランティアからの助言



観察路散策を終えて（気づきの発言）



## センターの動き（令和7年10月1日～令和8年1月10日）

10.2 モニタリング1000高山帯調査（ハイマツ等）（～3日）	（白 山）	11.11 中宮展示館閉館	（中 宮）
10.10 ニホンジカ糞塊調査（～11月12日）	（金沢市以南）	11.19 ニホンジカライトセンサス調査（～12月9日）	（金沢市）
10.15 白山室堂・南竜山荘閉館	（白 山）	11.20 プナオ山観察舎開館	（尾 添）
10.16 カモシカ全国会議（～17日）	（高知県）	12.13 第2回白山自然ガイドボランティア研修講座	（木 滑）
10.22 ジオパーク公認観光ガイド養成講座	（白山市）	1.6 普及誌はくさんバックナンバー展（～18日）	（金沢市）
11.1 いしかわの里山里海展（～2日）	（金沢市）	1.10 プナオ山観察舎 雪遊びdays（～12日）	（尾 添）
11.6 市ノ瀬ビジターセンター閉館	（市ノ瀬）	1.10 新春フリートークイベント	（金沢市）

### いしかわの里山里海展2025 （県産業展示館）



毛皮に触れてみる親子

### ニホンジカライトセンサス調査 （白山市瀬波他）



高輝度ライト照射による  
動物調査の様子



ライトに浮かび上がる  
ニホンジカとムササビ

## たより

今年、2026年は干支で言えば「午<sup>うま</sup>」、「馬」の年です。昨年末まで日曜夜9時から放映されたあるテレビ番組の中で「馬」、「競走馬」を扱ったものがありました。私は間近で馬を見たり、触れたりした経験はほとんどありませんが、人と馬とのかかわりは昔から深く、その始まりは日本においては約1500年前にも遡るそうです。元来、野生であった馬を人が手なずけて人とともに暮らせるようにするには、幾世代にも渡る人々のたゆみない努力があったことでしょう。はじめは家畜や富の象徴として、後に戦法の一つとして、そして、時代が移り変わると人や物資の運送の手段へと変化していきました。しかし、第二次世界大戦後は、ほぼ乗馬や競走馬として人とかかわるだけとなってしまいました。

その長い顔に長い鼻、大きな眼、よく動く耳、口。そして、たくましい筋肉とすらりとした脚。馬の特にあのうるうるとした眼は、何か言いたげでとても魅力的ですね。今日では人と馬とのかかわりはとても少なくなりましたが、その姿を見かける機会があれば、大きくても親しみを覚える人は多いと思います。馬はとても感性が豊かな面があり、人の感情を汲み取ることができるとも言われ、人に寄り添う動物介在療法の一つ、「ホースセラピー」としての活用も広がりがあさうです。今後は、馬だけでなく、昨年各地に出没し騒がせた熊など野生動物も含め、それぞれの動物たちとのかかわり方を今一度見つめ直し、新たな向き合い方を考える時が私たちに来ているように思います。

（川島）

### 編集・発行

はくさん 第53巻 第3号（通巻206号）

石川県白山自然保護センター  
〒920-2326 石川県白山市木滑ヌ4  
TEL. 076-255-5321 FAX. 076-255-5323  
URL <https://www.pref.ishikawa.lg.jp/hakusan/>  
E-mail. [hakusan@pref.ishikawa.lg.jp](mailto:hakusan@pref.ishikawa.lg.jp)

発行日 2026年1月30日（年3回発行）  
印刷所 株式会社大和印刷社

本誌は、再生紙へのリサイクル可能な用紙を使用しています



知識・経験ゼロから  
デザインを学んで  
在宅ワークを実現しませんか。

**TRY IT, NOW.**  
*Design Life*

広告代理店が運営する **デザインスクール** 広告

キテンスクールのオンライン授業なら…

①

オンラインで好きな時間に  
マイペースで学べます

②

スキルアップ・副業・転職・  
独立・趣味に活かれます

KITEN  
SCHOOL

詳しい資料の  
ご請求はこちら

キテンスクール 〒569-0071 高槻市城北町1丁目14-17 tel:072-668-3275 運営/株式会社ウィット